

## 縄文叙事詩「ホツマツタエ」再発見 50 年 ご取材案内

『現代用語の基礎知識』初代編集長で PF ドラッガーを日本に紹介した敏腕編集者、故松本善之助氏が神田古書街で偶然発見した古文書「ホツマツタエ」。今年、再発見 50 年目に当たる。漢字伝来以前の古代文字で書かれた膨大な文書は、謎に包まれた秘文献であったが、50 年間の研究により様々なことが判明してきた。

東京での記念フォーラムには、全国の研究者が結集し、解明された魅力の最先端を開示します。「世界最古の国、にっぽん（ギネス記録）」の不思議を解く鍵が、そこにあったのです。



昭和の再発見者  
故松本善之助翁

日時：平成 28 年 10 月 11 日（火）  
13:00～16:30（記者会見 15:30～16:30）  
場所：日本記者クラブ 10 階ホール（プレスセンタービル）

ギネスに載る世界最古の国「日本」。悠久の歴史と風儀を今に伝える我が国で「世界最古級の叙事詩写本」が発見されて本年は 50 年となる。漢字伝来以前の縄文古代文字で記された古文書は、「やまとことば」の原型を化石のように顕す 12 万余字の奇跡の文書だった。

『ホツマツタエ』の名を持つ「真実の伝承」は、在野研究者、郷土史家たちの心血をそそぐ研究により、ようやくその全貌が明らかになりつつある。だが、文明史の常識を覆す記述の数々は、途方もなく重く、深く、そして美しい。

謎に包まれていたその古文書は、古代史書という枠組みをこえる博物誌、哲学書、日本神学書の内実をもち、わが国の「やまとことばの言語学」「和の心」「和歌の精神」「暦、度量単位、科学技術のはじまり」「君臣一体のまとまり」の＜独自性＞を解明する「目から鱗」の記述に満ちる。

江戸時代の国学者の目に触れなかったために、研究が遅れ、現時点ではアカデミズムも静観している対象である本書は、いずれ 21 世紀の「日本学」の基本文献となるものです。

是非、研究の最先端に触れてみて下さい。

### 開催概要

日時：平成 28 年 10 月 11 日（火）開場 13:00 開演 13:20～16:30  
第一部【定員 150 名】13:20 基調講演 15:30～16:30 記者発表会

会場：日本記者クラブ（プレスセンタービル 10 階大ホール（日比谷）  
東京都千代田区内幸町 2-2-1  
地下鉄「霞が関」「内幸町」駅下車徒歩 2 分 JR「新橋」駅下車徒歩 10 分

講演内容 世界最古級の叙事詩写本 原田 武虎（「検証ほつまつたえ」編集人）  
わが国独自の文字と暦 小深田 宗元（ほつま・やまと塾 塾長）  
宮中祭祀の謎を解く 宮崎 貞行（作家・古神道研究者）  
時空を超える旅～聖地巡礼～ いとぎょう（ホツマ塾 主宰）（敬称略 発表順）

ゲストスピーカー Aika（心音道 ころねのみち 主宰）  
&アーティスト： 網本 わあみ（楽しくヲシテ文字を書く会 代表）  
今村 聡夫（「はじめてのホツマツタエ」著者）  
清藤 直樹（関西ホツマの集い 代表）  
駒形 一登（ほつまつたえ解説ガイド 運営）  
島川 崇（日本国際観光学会 会長）  
高島 精二（ホツマツタエ勉強会・中野 代表）  
千葉 富三（「甦る古代 日本の誕生」著者）（敬称略 五十音順）（予定※交渉中含む）

主催：ホツマツタエ再発見 50 年東京実行委員会

協力：東京ホツマ塾・ホツマ出版会・関西ホツマの集い・高島市ホツマ研究会・盛岡ほつまの会・  
楽しくヲシテ文字を書く会・マスミ東京

※記念フォーラム講演の後に記者会見となります。

※スチール、ムービーともカメラ位置は受付順でご案内します。

※誠にお手数ですが、会場準備の都合上、9 月 30 日（金）17:00 までに、返信上にご記入の上  
ご返信いただきますようお願い申し上げます。

本件に関するメディアの方のお問い合わせは、下記までお願いいたします。

ホツマツタエ再発見 50 年東京実行委員会 事務局  
担当：原田武虎（「検証ほつまつたえ」編集人）

電話：080-5297-0845 FAX：055-952-0022  
Eメール：tora@hotumatutaye.com

# ホツマツタエ再発見 50年記念 東京フォーラム

## 招待枠 申込書

- ご招待内容 I部 13:20～基調講演  
15:30～16:30 記者発表会
- ご招待対象 メディア関係者様
- 申込み期限 9月30日(金) 先着30名様



ホツマツタエ再発見 50年東京実行委員会  
FAX055-952-0022

10月11日(火) 東京フォーラム(日比谷)  
I部 招待枠に申し込みます。

御芳名		御所属	
御社名		撮影の有無	<input type="checkbox"/> 有り(スチール・映像) <input type="checkbox"/> 無し
媒体名		媒体	新聞・雑誌・テレビ・ ラジオ・WEB・その他( )
ご要望 ご質問			
TEL		FAX	
メールアドレス	※素材画像等をご希望の方はご記入下さい		
招待状 送付先 ご住所	〒 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> ※ご招待状ハガキをお送りしますので正確にご記入下さい		

このイベントを  
どこで知りましたか? 紹介( )さん ・ facebook で知った ・ WEB で知った  
チラシをもらった(どこで? ) ・ その他( )

事務局使用欄

# 縄文叙事詩の再発見から 50 年

## 古文書『ホツマツタエ』への関心高まる

我が国固有の古代文字で編纂された古文書『ホツマツタエ』が、神田の古書街で「再発見」されてちょうど 50 年となる本年、東京日比谷の日本記者クラブホールにおいて 10 月 11 日火曜日、記念フォーラムが開催された。

江戸時代に国学者による研究がなく埋没した存在だった同文献は、『現代用語の基礎知識』初代編集長であり PF ドラッグを日本に紹介した先駆者でもある松本善之助（故人）の慧眼にふれて「再発見」された。全国の郷土史家、愛好家によって研究が積み重ねられ、現在は複数の現代訳解釈本が書店にも並び、一般者の関心も高まっている。

48 字の表音表意文字により五七調で記された同文献の最古の写本は、平成 4 年に発見されたばかり。古語や掛詞が多用される難解な本文は 12 万余字の膨大なボリュームがあり、古事記や日本書紀の数倍の情報量がある。縄文時代の古代人の生活を描く「世界最古級の叙事詩」のひとつとしてその存在意義は高い。

「やまとことば」の原義を伝え、「暦や度量単位、方位学、造船、建築技法、乗馬法」などの起源を伝え、「和を以て貴し」とする我が国独特の「徳治主義」の教えを説く。従来の「神話世界観」を塗り替える具体的な記述に、老若男女の興味を惹く魅力が有るようだ。

同日のフォーラム（ホツマツタエ再発見 50 年東京実行委員会：一糸恭良、宮崎貞行共同代表主催）には全国から研究者愛好者が二百名近く集まり、最新の研究成果に耳を傾けていた。